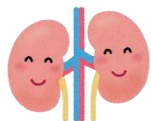


# Information 1

最近は一気に寒くなりました。

寒くなるとなりやすい病気の1つが“**腎臓病**”です！



腎臓の役割は、大きく分けて3つ！

① 排泄機能 ② 調節機能 ③ 内分泌機能

尿の生成・尿中の老廃物の排泄、電解質の調節、血圧調節、赤血球の生産調節など様々な機能を担っています。

腎臓のつくりで、犬猫で腎臓病の進行度が違います。

## 猫

腎臓の**再吸収する機能が低下**

水分を失い、実際以上に毒素の値が高くなり早い段階で症状がでる  
体液を補って症状改善が期待

気が付いたときには腎臓病が進行していることが多いのは**犬**に多いです。  
腎臓病は大きく急性と慢性に分けられます。

## 犬

腎臓の**ろ過する機能が低下**

身体の中の毒素が多くなり  
症状が出るまでに時間がかかり  
気づいたときには尿毒症に…

## 急性腎臓病(AKI)



**数時間から数日の間**に腎臓の機能が急激に低下

老廃物が蓄積…尿毒症になります。

多くのネフロンが同時に障害を受けるので症状もでできます。

尿からの老廃物の排泄や体液調節ができない状態に。

症状：食欲不振、嘔吐、下痢、元気消失

尿毒症に進行してしまうとこんな症状が出てきます。

運動失調、痙攣、呼吸困難、昏睡、浮腫、口内炎、口臭、乏尿、無尿

最悪の場合は、**死に至る**こともあります。



## 慢性腎臓病(CKD)

徐々に進行していき腎臓の機能の75%が障害されるまでは  
目立った症状ありません。

症状が出た際にはかなり進行した状態になっている可能性が高いです。  
「**原因にかかわらず、腎機能の低下が3ヶ月以上持続する状態**」  
と定義づけされています。

症状：多飲多尿、尿のにおいが気にならない、食欲不振、嘔吐、便秘、  
毛づやが悪くなる、脱水、口臭、痩せてきた、歯茎が白い



## ～治療法～

一度壊れてしまった腎臓は元には戻りません。

**進行を遅らせ維持できるかがカギ**になっています。

### ① 食事管理

低たんぱく、低リン、低ナトリウム食で腎臓への負担を軽減  
食物繊維やオメガ-3脂肪酸を多く含む食事で腎臓をサポート



### ② 投薬

腎臓の進行度によってお薬が変わる

### ③ 補液

体液循環と脱水改善



また治療法の選択肢は様々あります。

できる事を一緒に検討していくことが可能です！

腎臓は**尿検査、血液検査、画像診断**で判断します。

人よりも7倍歳を取るのが早い動物たちは人間の1年間はあつという間です。

若齢よりもシニアの犬猫は発症する割合が高く、

15歳以上の猫は30%が腎臓病を患っています。

**若齢でも年1回、シニア期は年2回全身の検診がオススメ！**

今年検診してない方は検討してみては？

